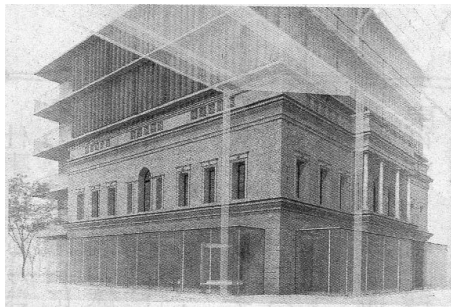


広島のアンドルセン 旗艦店建て替え

【広島】アンドルセン・パン生活文化研究所（広島市）は広島市中心部の本通商店街にある旗艦店「広島アンドルセン」を建て替える。新店舗は地上5階建てで、顧客が買ったパンを食べたり、市民の憩いの場として活用できたりする「ポケットパーク」（仮称）も横に設ける。2020年8月の開業を目指す。

本通の広島アンドルセンは改装に向け16年から閉店していた。まず7月から旧店舗を解体。新店舗の建設着工は19年2月になる。新店舗の延べ床面積は約3500平方メートル。ベーカリーやカフェが入る。

1階、4階、5階の外観はガラス張りだが、2階、3階部分は旧店舗の建物デザインを踏襲する。被爆建物である旧店舗の外壁を一部切り取り、新店舗の2階外壁の一部に使用する。



一日経MJ2018.7.4-

AIスピーカー

「画面付き」競争号砲



アマゾンジャパン（東京・目黒）は、国内で初となる画面付き人工知能（AI）スピーカーを発売した。

アマゾンが発売した「エコスポット」は、球体の端末に円形の液晶画面を埋め込んだ構造

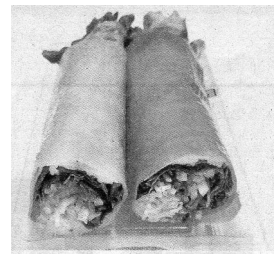
だ。電子商取引サイトの買い物履歴や、音楽を声で指示したり、液晶画面を指で操作したりできる。価格は1万4980円。20日からネット上で予約を始めており、7月末に出荷する。目玉の一つが今後搭載する予定の画面を使ったテレビ電話やメッセージ送受信などのコミュニケーション機能だ。スマホの専用アプリからメッセージを文字で送信すると、スピーカーが音声で読み上げる。声を吹き込んで音声データを送ることもできる。

一日経MJ2018.6.22-

「野菜シート」で生春巻き

ヨーカ堂 ベンチャーと協力

イトーヨーカ堂は野菜のシートで具材を包んだ生春巻きを首都圏の店舗で発売した。規格外の野菜と寒天だけを使い、野菜をシート状に加工した食材「ベジート」を使う。



サラダ好きの消費者や、野菜が苦手な子供を持つ世帯などの需要を見込む。ベジートは食品開発ベンチャーのアイル（長崎県平戸市）が製造・販売する商品で、パリパリとしたノリのような食感を楽しむことができる。食材を包んだりちぎってふりかけたりするなど幅広い料理と組み合わせることができるという。

イトーヨーカドーの首都圏118店で惣菜「人参と大根ベジート生春巻き」（537円）を販売する。ベジートを使った総菜やサラダの商品は順次、拡大する。

一日経MJ2018.6.29-

■モス 4年ぶりナン復活

モスフードサービスは「モスバーガー」で4年ぶりにナンシリーズを復活させて発売した。夏の期間限定商品として人気を集めていたもので、再販売の要望が最も多かったことから販売を決めた。2種を9月中旬まで販売する。

「ナンタコス」（430円）はひき肉のスパイスの配合を調整しスパイシーに仕上げた。「ナンカレードッグ」（420円）はナンの上にソーセージとカレーソースをかけた。辛みが食欲を刺激する商品にした。

ナンの生地はオリジナルの配合で、外側はカリッとしながら内側はもちっとした食感に仕上げた。復活とともに、両商品とも風味を高めるなど改良したという。

一日経MJ2018.7.18-

